

疆域

〔尾張志〕國號及本基の總論

國の大體、西北を首とし、東南を尾とす、東は參河につゞき、南は海を隔て、志摩、西北は陸にて、北より西は美濃、西より南は伊勢に亘れり、

〔日本地誌提要^{十一}尾張〕疆域 東ハ三河、西北ハ美濃、西南ハ伊勢、南ハ海ニ至ル、東西凡八里、南北凡壹拾九里、

〔續日本紀^{三十}稱德〕神護景雲三年九月壬申、尾張國言、此國與美濃國界有鵜沼川、今年大水、其流改道、每日侵損葉栗中島海部三郡百姓田宅、又國府并國分二寺俱居下流、若經年歲必致漂損、望請遣解工使開掘、復其舊道、許之、

〔鹽尻^{三十三}〕一日本紀に、尾張美濃の界を鵜沼河といへり、豐臣家妄りに國界を私になしてより、尾張の地濃州と呼地多し、

〔鹽尻^{五十五}〕一尾張川九瀬 大炊渡 鵜沼渡 板橋渡 氣瀬渡 大豆途渡 食卯渡 釋鳥渡 墨俣渡 市川渡

是は古へ尾州より美濃へ渡る境なり、今の如きは濃州に屬す、

〔更科日記〕尾張の國なるみの浦を過るに、夕しほたゞみちに満て、こよひ宿からんもちうげんにまほみちきなば、こゝをも過じとある限り走りまどひすぎぬ美濃の國なるさかひにすのまたといふわたりして、野上といふ所につきぬ、

〔鹽尻^七〕一古しへ濃州より尾州に至る道は野上、春野、大墓、赤坂、是より墨俣川をこえ、小熊に出

づ古濃州道春は羽栗郡也、今は屬濃州、

加納古書也、野尾州羽栗郡也、今は濃州、黒田、一宮、下津、萱津、今は濃州、赤坂より墨俣を経て、結やをに至り、是より萩原、稻葉、清須を歴て、名古屋に出て、熱田に行、